

認知症施策推進部会における検討

令和 4 年 1 月 24 日

令和 3 年度第 1 回地域包括ケア推進ネットワーク会議賀茂圏域会議

地域包括ケア推進ネットワーク会議 認知症施策推進部会

◎ 委員

任期：令和3年6月1日から令和5年5月31日（2年間） 敬称略

区分	所属	役職	氏名
学識経験者 (部会長)	国立大学法人浜松医科大学 天竜厚生会診療所 脳神経内科	名誉教授	宮嶋 裕明
医療関係者	静岡県医師会(認知症サポート医)	理事	岡 慎一郎
	静岡県医師会(認知症サポート医)	理事	小野 宏志
	(認知症疾患医療センター) NTT東日本伊豆病院	院長	安田 秀
介護保険 事業者	(介護支援専門員協会) 救護施設沼津市立高尾園	施設長	深沢 康久
	(老人福祉施設協議会) 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター	施設課長	山本 久恵
	(認知症高齢者グループホーム連絡協議会) 有限会社ハーベストライフ	代表取締役	宮本 光也
	(小規模多機能型居宅介護事業者連絡会) 特定非営利活動法人ハッピーネット富士まほろば	所長	秋山 幸枝
地域支援	(地域包括・在宅介護支援センター協議会) 焼津市南部地域包括支援センター	係長	望月 句子
	認知症の人と家族の会静岡県支部	代表	石田 友子
市町行政	藤枝市地域包括ケア推進課	主幹	伊久美 佳代

認知症施策推進部会の目的、協議内容

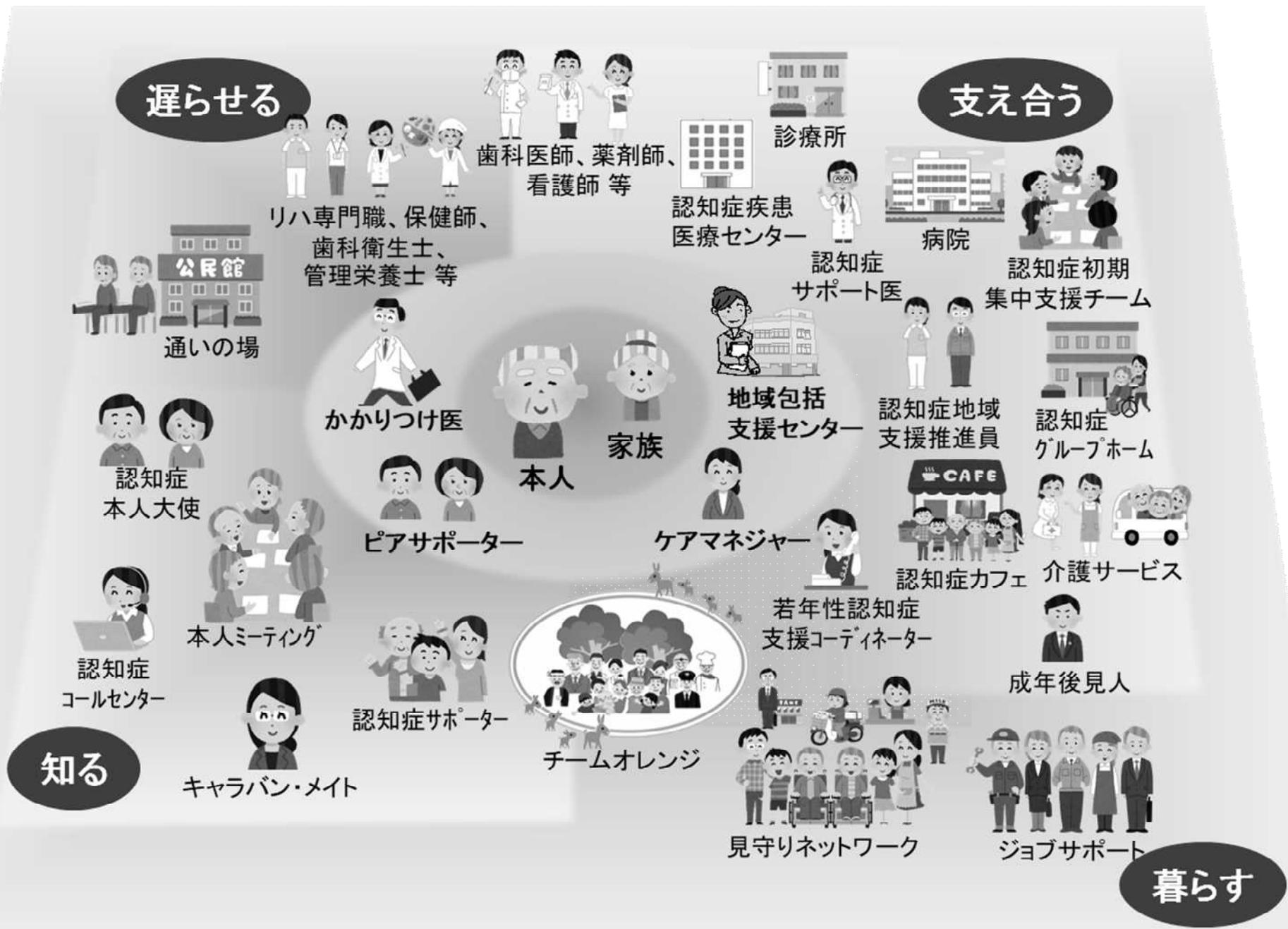
■ 目的

認知症施策に係る医療・介護の連携や市町支援の方策を検討し、施策につなげる。

■ 協議内容

	令和2年度			令和3年度	
回次 時期	第1回 R2.6月（書面）	第2回 R2.9.8	第3回 R3.2.9	第1回 R3.9月（書面）	第2回 R4.2.1
内容 (議題)	①計画素案の構成 ②認知症施策の 全体像	①計画の骨子等に関する議論を踏まえ、課題、施策の方向性、具体的な取組を計画（素案）として提示 ⇒次年度予算要求	①計画（最終案）のまとめ ②令和2年度の取組実績・進捗管理、令和3年度の事業計画を報告	①第9次静岡県長寿社会保健福祉計画の策定報告 ②認知症総合対策推進事業の実施状況	①第8次静岡県保健医療計画中間見直し ②令和3年度の取組実績・進捗管理、令和4年度の事業計画を報告

認知症施策の全体像



令和3年度第1回認知症施策推進部会における協議

1 協議方法

書面協議（9月～10月）

2 協議内容

(1) 第9次静岡県長寿社会保健福祉計画の策定（報告）

(2) 認知症施策推進に係る事業の実施状況（協議）

区分		令和3年度の取組
大柱	中柱	
知る	認知症に関する理解促進	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーターの養成 認知症キャラバン・メイトの養成 企業サポーターの養成 世界アルツハイマーデーに合わせた広報
	相談先の充実・周知	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援体制の充実
	認知症の人本人からの発信支援	<ul style="list-style-type: none"> ピアサポート活動支援 認知症の人本人からの発信支援
遅らせる	認知症予防に資する可能性のある活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の推進 市町における認知症予防事業の現状把握と取組収集、市町ヒアリング (新規)新たな生活様式に対応した健康づくり(新型コロナ対策)
	予防に関する国の研究成果や事例の普及	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の推進【再掲】 (新規)新たな生活様式に対応した健康づくり(新型コロナ対策)【再掲】

令和3年度第1回認知症施策推進部会における協議

区分		令和3年度の取組
大柱	中柱	
支え合う	早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町の状況把握、必要な支援策の聴取 ・ 初期集中支援チーム員養成 ・ 地域支援推進員の養成 ・ 認知症疾患医療センターの指定15センター ・ (拡充)認知症疾患医療センターの機能強化 ・ 認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業 ・ 多職種連携の強化
	医療体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポート医の養成、活動支援 ・ 認知症サポート医の活動促進事業 ・ 医療従事者の認知症対応力向上
	介護サービスの基盤整備、介護者の負担軽減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域密着型サービスの整備支援 ・ 認知症の人の生活を支える介護の提供 ・ 生活支援体制の充実
	地域支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り・SOS体制の強化 ・ 認知症の人や家族を支える体制整備
	若年性認知症の人への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援体制の強化 ・ 就労支援
暮らす	バリアフリーのまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動・外出しやすい環境整備 ・ 交通安全対策の推進
	企業等における認知症に関する取組促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業等における認知症に関する取組推進
	社会参加支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会参加支援

認知症施策推進部会委員からの主な意見及び今後の方向性

取組	委員からの意見	今後の方向性
認知症サポーターの養成	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会レベルでの養成や認知症サポーターへ定期的な情報提供をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や町内会での養成や情報提供を更に強化するほか、市町と連携し、認知症サポーターが、見守りや認知症カフェなどの活動を行う「チームオレンジ」の設置を促進する。
ピアサポート活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・診断初期で介護サービスを必要としない人を行政や地域包括支援センターが把握することは難しいため、医療現場での介入があるとピアサポーターの相談につながりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・診断直後などの認知症の人や家族に対するピアサポート活動は重要であることから、認知症疾患医療センター等の医療現場での実施を促進するとともに、健診等の機会を捉えた早期発見の仕組みづくりを行っていく。
認知症の本人からの発信支援	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や介護事業者等にまだ浸透していない。県民への周知とは別に実施する方が良い。 ・自分の想いを上手く他者に伝えられなくても、想いを聴く「場所づくり」や「人」を増やす仕組みづくりが必要。 ・認知症状のある方の人前での講演や交通機関での移動などは緊張を強いられるため、御本人への配慮をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、静岡県希望大使からのメッセージ動画を作成しており、医療機関や介護事業者等に研修等で周知していく。 ・引き続き、市町と連携して地域で本人の声を聴く取組を促進していく。 ・御意見を踏まえ、今後も本人の状態や意向に応じて、本人の負担にならないよう配慮していく。

認知症施策推進部会委員からの主な意見及び今後の方向性

取組	委員からの意見	今後の方向性
「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・KDBシステムの情報と現場（福祉課・地域包括等）の情報が突合できる分析の仕組みがあると良い。糖尿病・栄養状態・口腔機能・聴力などの情報が統合されると良い。 ・医療と介護予防の連動が充実するよう、かかりつけ医の相談の充実を期待する。 ・介護予防も認知症予防も食習慣や口腔衛生・口腔機能向上が大切。口腔ケアネットワーク等の取組を推進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国保連合会の協力により、市町におけるKDB活用方法を支援しており、引き続き市町の健康課題の分析を行っていく。 ・医師会モデル事業の実施により、かかりつけ医と連携して早期から切れ目のない取組を推進していく。 ・口腔機能向上については、市町の実情に応じた取組を推進し、好事例を研修会等で情報提供していく。
新たな生活様式に対応した健康づくり(新型コロナ対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した通いの場の活動について周知広報が大事。各種SNSでの発信や、活動に関わる情報にアクセスできるアプリの開発や提供も検討してほしい。 ・ICTは対面を補完するものであり、通いの場に集まっても良い条件など、考え方を整理する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、健康づくり応援サイトを開設し、ICTを活用した通いの場の活動など様々な健康づくりの取組を発信していく。 ・オンラインと対面を状況に合わせて適切に活用できるよう、通いの場等での好事例の共有を図りながら、対面での活動に向け取り組んでいく。

認知症施策推進部会委員からの主な意見及び今後の方向性

取組	委員からの意見	今後の方向性
<p>認知症の人をみんなで支える地域づくり推進事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームによる現場からの指導は新たな取組で良い。小規模多機能型居宅介護事業所も連携強化の仲間に入れてほしい。 ・事業に参加しているグループホームの独自の活動を知りたい。 ・グループホームを福祉避難所とし、平常時の見守りや徘徊行方不明時にも協力したり、認知症カフェや介護者の会を開設して認知症高齢者の情報を得る場としてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの専門性が生かせる取組となるよう支援していく。今後、他の介護事業所との連携強化の取組も検討する。 ・2月に開催する活動報告会の資料にまとめる予定。 ・御意見を参考に関係団体や市町と相談、検討する。
<p>生活支援体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェでは、資金調達やネット環境がないことが課題。行政機関からの助成や協力があると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町が支援している認知症カフェへの助成・協力事例を研修会等を通じて周知する。
<p>見守り・SOS体制の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機器・システムのそれぞれの利点・難点が明確になっているのか、どのような基準で選定されているのか。認知症に対応している医療機関への情報提供が不十分。 ・市町の広報の活用などにより発信する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町が地域の実情に応じて様々な機器やシステムを選定している。今後、かかりつけ医向け認知症対応力向上研修等でも周知していく。 ・県では新たに啓発チラシの作成や市町の取組のHPでの周知をしており、事前登録者を増やすために、市町の広報紙等の活用を更に促進していく。

認知症施策推進部会委員からの主な意見及び今後の方向性

取組	委員からの意見	今後の方向性
<p>認知症の人や 家族を支える体 制整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジの目指すべきは「地域共生社会」の実現であると感じる。 ・各地域にチームオレンジを設置促進するため、地域包括支援センター等が基盤となって活躍の場や仲間づくりの環境を紹介できる体制基盤を整備することにより実効性のあるものになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域共生社会」の実現につながるよう、チームオレンジの設置後においても取組の活性化に向け市町を支援していく。 ・御意見を参考にチームオレンジが実効性のあるものになるよう、支援体制の構築に努める。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大柱「暮らす」の中柱に「意思決定支援」の項目が必要ではないか。成年後見制度や「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」の普及推進が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画では、大柱「知る」と「支え合う」の中で、認知症サポーターや医療・介護従事者への周知を記載しており、御意見を参考に次期改訂に向けて検討していく。

認知症施策推進に係る市町の課題・要望

令和3年6月に県調査を実施。また、令和3年6月29日～7月29日、市町とのヒアリングを実施。ヒアリング等で聴取した市町の課題や県への要望について、次によりまとめました。

中柱	課題	県への要望
知る	<ul style="list-style-type: none"> ・住民への認知症の理解や周知が不足している。 ・本人が発信できる環境・体制づくりができていない。 ・本人の声を施策に反映する取組ができていない。 ・自分事として主体的に取り組む住民が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の声を施策に活かすことができた事例の紹介、本人が施策に関わる方法 ・静岡県希望大使の派遣 ・キャラバンメイトの養成
遅らせる	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防の普及啓発が必要。 ・通いの場への参加促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防に関するエビデンスの情報提供
支え合う	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の本人や家族へ早期に関わる支援体制ができていない。 ・診断後に支援につながるまでに空白の期間がある。 ・家族が周囲に相談できないことで孤立化してしまう。 ・介護家族会の活発化が図れない。 ・徘徊が続くと施設入所を訴える住民がいる。 ・地域における見守りの仕組みの充実。 ・初期集中支援チームを活用するケースが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジの立ち上げ支援、実施市町の活動状況の提供、活動推進のための助言 ・ピアサポート活動支援 ・疾患医療センターが相談に関わる体制づくり、サポート医と連携している事例紹介 ・初期集中支援チームの好事例紹介 ・地域支援推進員の研修や連絡会の開催
暮らす	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症やM C I の方の居場所が不足している。 ・社会参加活動を推進する体制づくりが必要。 ・運転免許証の返納の促進が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症支援のための社会資源や事例の情報提供

